

令和4年度 第1回 沖縄観光2次交通の利便性向上に向けた検討委員会

観光系路線バスを対象とした コンタクトレス決済導入に係わる実証

令和4年9月30日

1. 昨年度の取組内容

- ❖ウィズコロナ・アフターコロナの新たな生活様式への対応及びインバウンド需要回復を見据え、観光系路線バスにおいて、コンタクトレス決済（非接触型）の導入に関する実証実験を令和4年2月1日から3月24日の間に実施した。
- ❖対象5社に計30台の端末を設置し、Visaのタッチ決済、QRコード決済の利用を可能とした。

▼昨年度の取組の概要(対象とした観光系路線バス、周知資料等)

会社名	対象路線	決済手段	決済端末
沖縄エアポートシャトル	・リゾートライナー ・エアポートライナー	・Visa のタッチ決済	7台
沖縄バス（リムジンバス）	・空港リムジンバス（全路線） ※空港リムジンバスの沖縄バス販売所窓口を設置	・Visa のタッチ決済	4台
カーリー観光	・北谷ライナー ・パルコシティシャトルバス ・瀬長島ライナー ※豊崎ライナー、美ら海ライナーは運休により未実施	・Visa のタッチ決済 ・QRコード決済	3台
東京バス	・ハーレーエクスプレス ・ウミカジライナー	・Visa のタッチ決済 ・QRコード決済	8台
やんばる急行バス	・空港線（那覇空港～運天港） ・四島線（瀬底島～古宇利島）	・Visa のタッチ決済	8台
合 計			30台



公共交通で快適な沖縄観光を

クレジットカード等のコンタクトレス決済の導入でますます便利に!

沖縄県では、観光客の皆様へ安心、快適にバスをご利用いただくため、令和4年2月1日から3月24日まで観光客の利用が多い那覇空港を発着又は経由する一部路線バスにおいてコンタクトレス決済の実証導入に取り組んでいます。

導入される決済の種類 **Visaのタッチ決済、各種QRコード(二次元コード)決済**

※その他、ご利用可能な決済方法は事業者ごとに異なります。詳しくは以下をご確認ください。

対象となるバス会社	導入される決済の種類
沖縄エアポートシャトル有限責任事業組合（リゾートライナー、エアポートライナー）	現金、Visaのタッチ決済、QR決済（楽天ペイ、Alipay、WeChatペイ）が利用可能。また、Webサイト（事前予約）で事前決済が可能。
沖縄バス株式会社（空港リムジンバスの沖縄バス販売所窓口）	現金、Visaのタッチ決済が利用可能。また、Webサイト（事前予約）で事前決済が可能。
有限会社カーリー観光（北谷ライナー、瀬長島ライナー、パルコシティシャトルバス）	現金、Visaのタッチ決済、QR決済（Alipay、PayPay、J-Coin Pay）が利用可能。
東京バス株式会社（ハーレーエクスプレス、ウミカジライナー）	現金、Visaのタッチ決済、QR決済（Alipay、PayPay）が利用可能。
合同会社やんばる急行バス（空港線、四島線）	現金、クレジットカード、QR決済（楽天Edy、WAON、nanaco、IDeC、QUIC Pay）が利用可能。また、Webサイト（WILLER TRAVEL）で事前決済が可能。

※各バス会社やバスでは、2020年よりVisaのタッチ決済に対応済みです。
※一部の路線、便ではご利用いただけない場合があります。

バスの運賃箱付近や乗降窓口に設置されている専用機器に、Visaのタッチ決済に対応したカードをかざしていただくことで運賃を支払うことができます。

このマークのあるVisaカードで運賃の支払いが可能です。

乗降のマークにカードをかざしてください。
※プレスリリース資料(PDF)

Googleマップや乗換検索サイト等で公共交通による観光地へのアクセス方法を確認できます!

沖縄県全体の公共交通の運行情報をGoogleマップに提供するとともに、その他の乗換検索サイトやアプリへの情報提供を進めています。

普段とは違うスピードで地元の人との触れ合いがある

観光スポットの情報をアクセスが分かりやすい

車窓からの風景やお洒を楽しむ旅が気軽にできる

取り組みについて

沖縄県では、観光2次交通の利便性向上に向けた取り組みとして、公共交通と観光情報のオープンデータ化を進めています。沖縄県の公共交通情報をGoogleマップに提供し、検索できるようになりました。今後、引き続き沖縄県全体のより充実した観光環境の構築に向けて取り組めます。

公共交通を利用した沖縄観光のモデルコース

本取組全般に関する情報は、観光2次交通オープンデータ推進事業実施事務局(株式会社エンクルコンサルタンツ) [Email: oki_2k@encrconsult.com] までお問い合わせください。また、交通情報に関するお問い合わせは、各交通事業者へお問い合わせください。

【参考①:導入した端末機器による決済手順】

- ・最低限の操作回数で決済が完了し利用者が使いやすいUI。利用者自身の操作により運転手の負担を軽減。（今年度も同様）

①スタート画面

【乗車時に運賃をお支払いする場合】
・降車バス停を選択してください。

【降車時に運賃をお支払いする場合】
・乗車バス停を選択してください。



②ご利用人数の選択

・次に、ご利用になる人数を、画面の「+」「-」ボタンで選択してください。（初期状態は「大人1名」選択済みです）

・ご利用人数・支払い合計額を確認し、画面右下の「支払い」ボタンをタップしてください。



③決済方法選択画面

・決済方法のボタンをタップしてください。

・Visaのタッチ決済の場合には、「クレジットカード決済（タッチ決済）」をタップしてください。



④決済媒体の読取画面

【Visaのタッチ決済の場合】

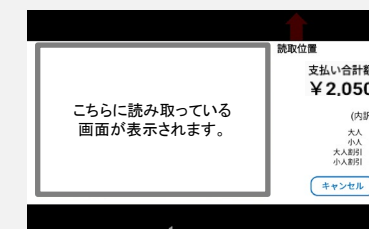
・画面が表示されましたら、タッチ対応のクレジットカードを画面上のマークにタッチして完了です。

【QRコード決済の場合】

・画面が表示されましたら、「読取位置」にQRコードをかざして完了です。



【Visaのタッチ決済の場合】

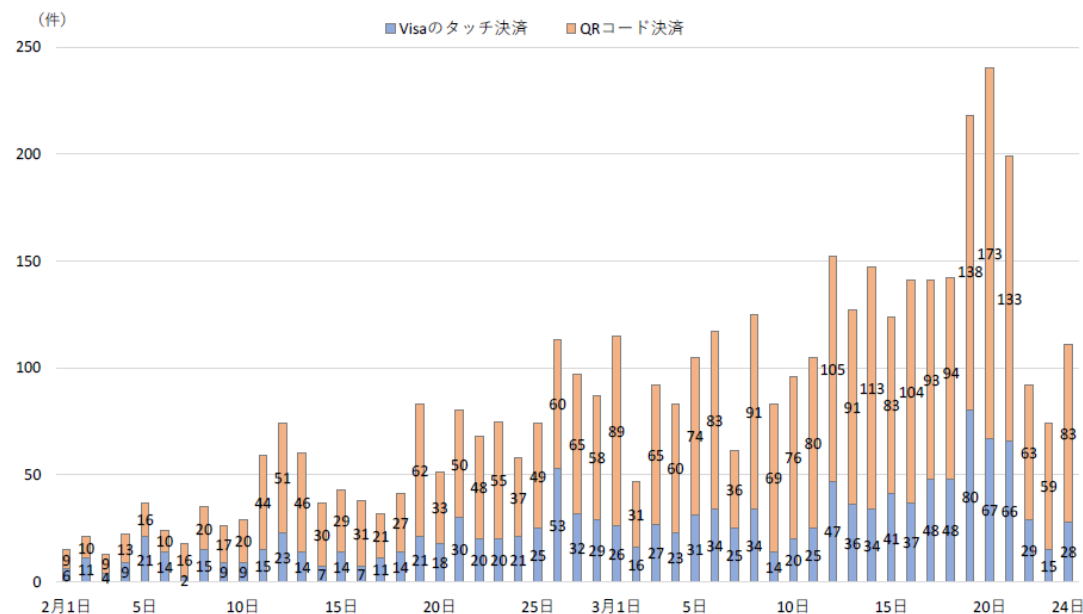


【QRコード決済の場合】

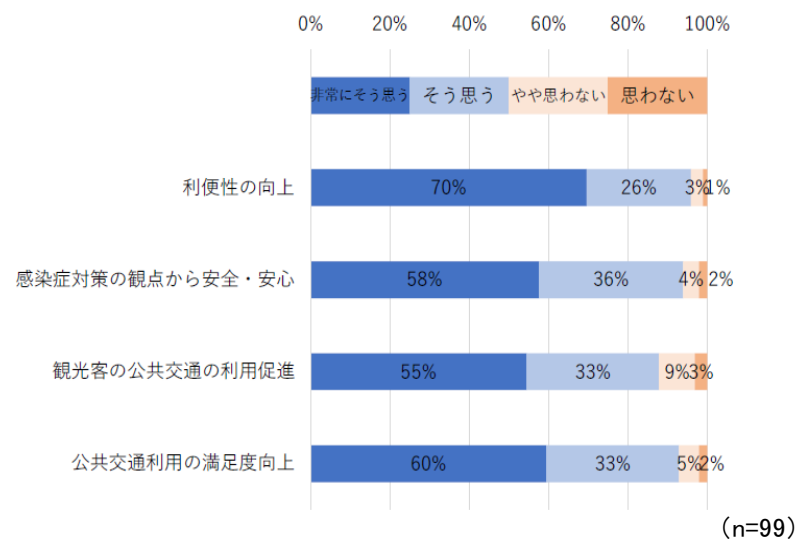
【参考②:昨年度(令和3年度)の実施結果】

- ・実証実験の結果、令和4年2月1日から3月24日の間で4,237件の利用実績があった（対象5社の合計。Visaタッチ1,325件、QRコード3,022件）
- ・対象バス会社のうち利用が最も多く見られたバス会社では、日あたりのコンタクトレス決済比率が売上全体のうち20％を占めた。

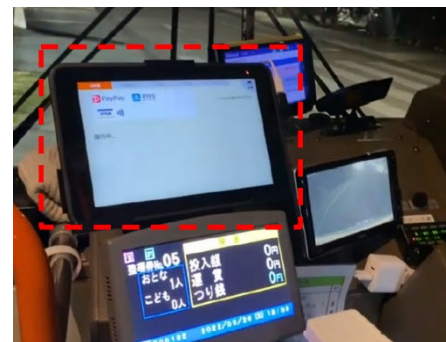
▼実証期間中のコンタクトレス決済の利用実績



▼利用者アンケート結果:コンタクトレス決済の普及による有効性



▼実際の設置の様子(東京バス)



2. 今年度の取組方針

❖昨年度の取組結果を踏まえ今年度の実証は、沖縄バス（空港リムジンバス）、カリー観光、東京バスの3事業者を対象に、端末台数を拡充し、実証を継続する（令和5年3月までの実証を想定）。

⇒沖縄バスは昨年度は窓口での設置だったが今年度は空港リムジンバス車内にて設置。

❖対象となる3事業者については課題把握、効果検証を行い、次年度以降の自走・継続につなげるものとする。

▼今年度の実証予定事業者、対象路線、決済手段、端末台数

会社名	対象路線	決済手段	決済端末
沖縄バス（リムジンバス）	・ 空港リムジンバス（全路線）	・ Visa のタッチ決済	14台
カリー観光	・ 北谷ライナー ・ パルコシティシャトルバス ・ 瀬長島ライナー ・ 美ら海ライナー	・ Visa のタッチ決済 ・ QRコード決済	6台
東京バス	・ 琉球ホテルエアポートリムジン ・ ハーレーエクスプレス ・ ウミカジライナー	・ Visa のタッチ決済 ・ QRコード決済	14台
合 計			34台

❖以下については、外部要因に起因する内容も含まれるが、実証期間中に対応できるよう検討・実施を進めるものとする。

- ・クレジットカードの決済手段について、JCBのタッチ決済にも対応できるよう調整を進める。
- ・効果検証について、利用実績の把握、利用者アンケート等を実施する。
- ・また、各バス会社から上がっている課題（決済の反応速度向上等）について、端末メーカー（小田原機器）と協議をしつつ適時対応・改善を進める。
- ・インバウンドについては、動向を踏まえつつ、対応準備を進める（決済端末自体は多言語対応済みであるが、端末の操作方法についての多言語補足資料の検討や周知・案内資料の作成等）。
- ・実証後の自走化について、ランニングコスト、メンテナンス体制等、早期から端末メーカー、バス会社と協議・調整を行う。

2. 今年度の取組方針

- ❖ 本取組の周知のため、車内・バス停による告知、リーフレットの配布、空港におけるデジタルサイネージの告知を行う。
- ❖ 外国人客の回復を見据え多言語による案内資料も検討。



昨年度作成した告知ツール



告知リーフレット

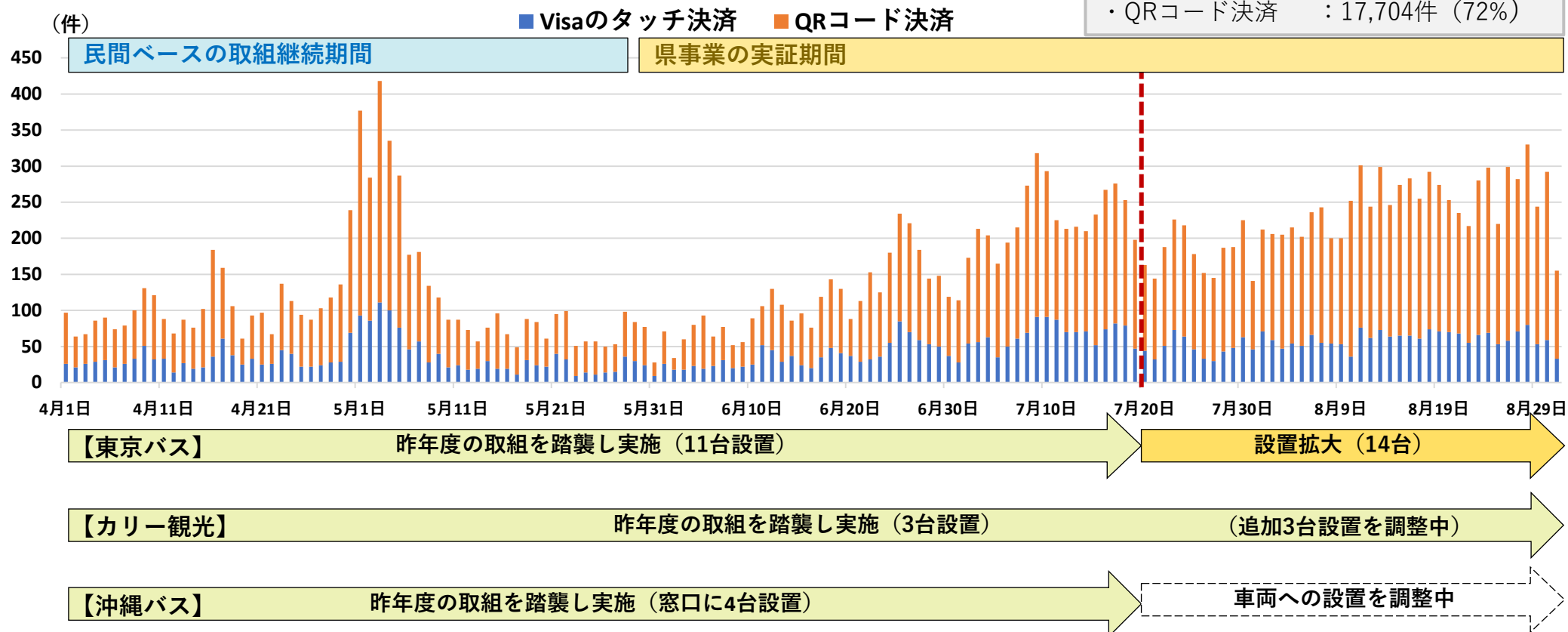


那覇空港におけるサイネージでの告知

3. 実施の状況

- ◆今年度の実証は6月より開始。（昨年度の実証終了後から今年度の実証開始までの間は民間ベースの取組として継続）
- ◆6月の開始当初は昨年度の実証内容（台数等）を踏襲して開始。
- ◆東京バス、カーリー観光については台数を拡充、沖縄バスは窓口設置から車両への設置に変更のうえ実施を継続。
※東京バスは7月23日より全台数（14台）設置を行い運用を開始。カーリー観光は一部設置準備中、沖縄バスは設置準備中。
※カーリー観光、沖縄バスについては10月初旬での追加を予定。
- ◆4月1日から8月末までの利用件数は24,540件（うち28%がVisaのタッチ決済、72%がQRコード決済）

【今回導入した端末による決済の件数（期間：4月1日～8月31日）】



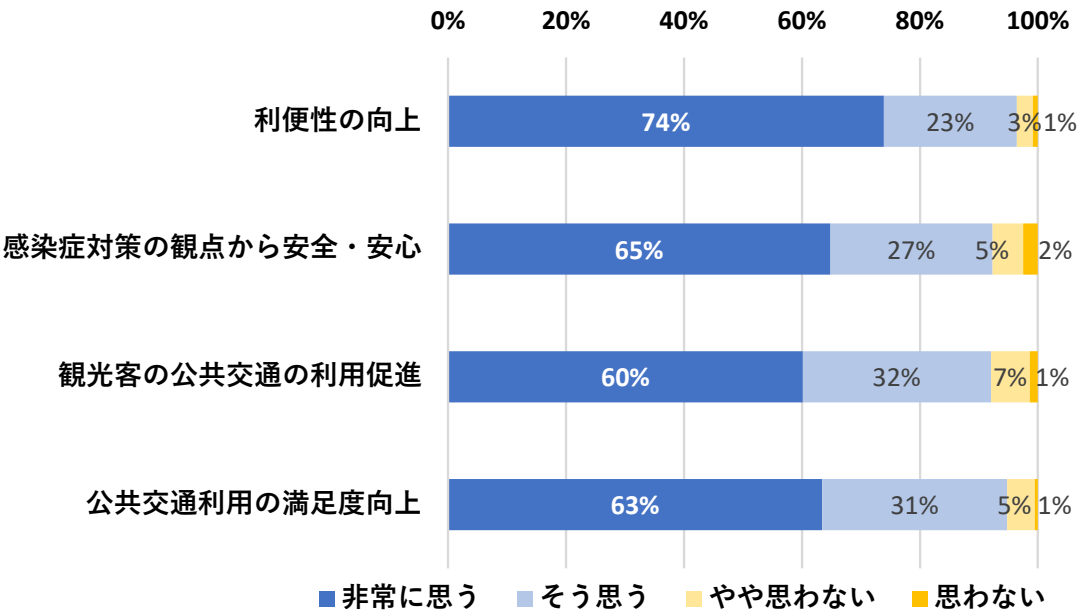
【参考:対象路線の利用者へのアンケート調査結果(1/2)】

- ❖対象事業者（3社）の利用者を対象として実施しているアンケート調査の結果を以下に示す。
- ❖アンケート調査は対象である3事業者の令和4年4月1日～8月31日の364件を対象としている。

コンタクトレス決済の普及による有効性について、昨年度同様、4つの観点において「非常にそう思う」または「そう思う」の回答がどれも80%以上となっており、バス利用者もコンタクトレス決済に関心があり有効であることがわかる。

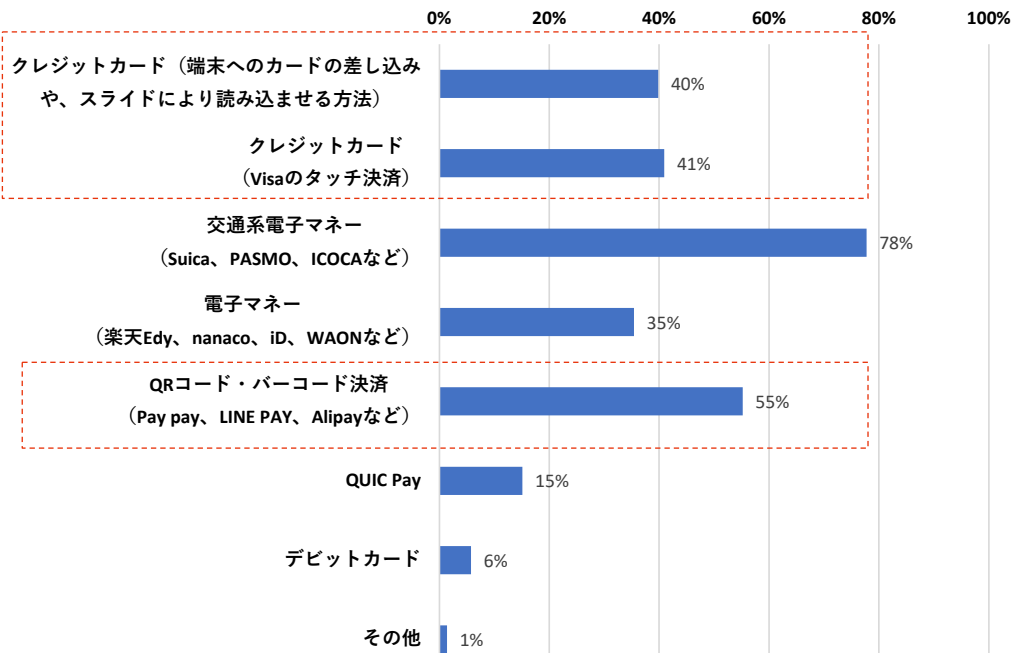
県内の公共交通の導入を進めて欲しい決済方法について、「交通系電子マネー」が78%と最も多く、次いで「QRコード・バーコード決済（55%）」、「クレジットカードによる決済（41%）」となっている。

【コンタクトレス決済の普及による有効性】



n=364

【県内の公共交通の導入を進めて欲しい決済方法】



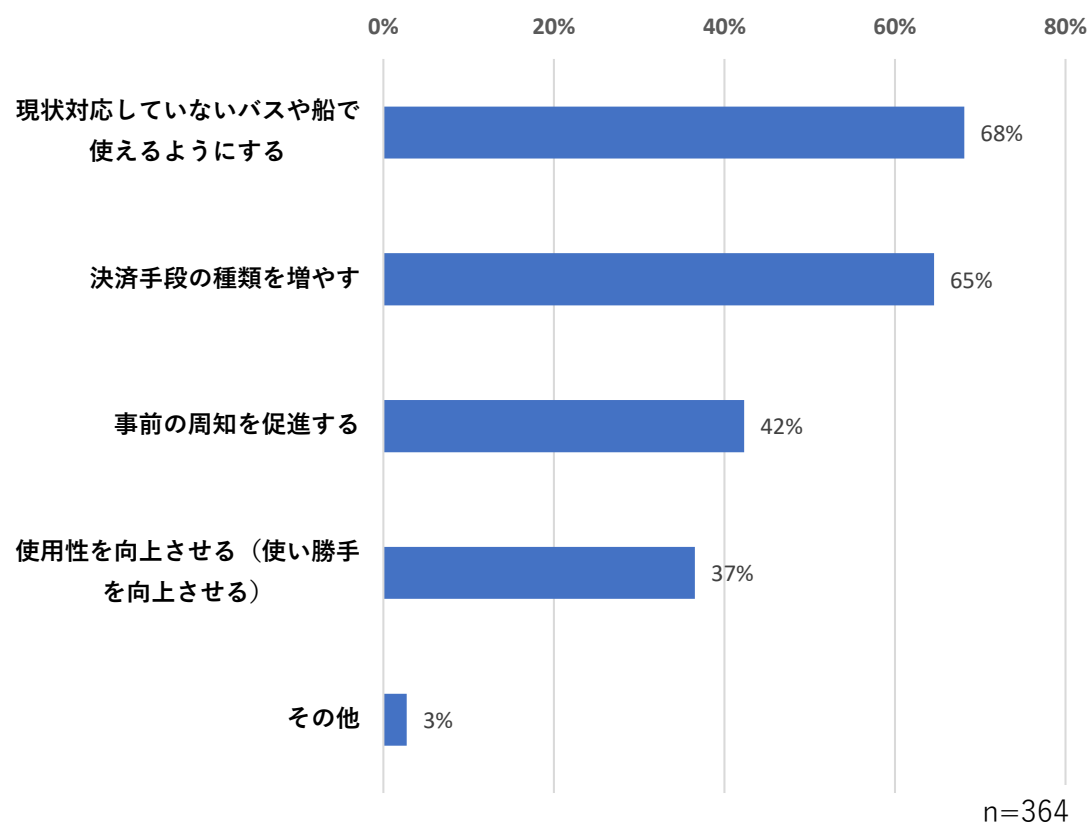
n=364

【参考:対象路線の利用者へのアンケート調査結果(2/2)】

コンタクトレス決済の取組を進めるうえで重要なことについて、「現状対応していないバスや船で使えるようにする」が最も多く68%、ついで「決済手段の種類を増やす」が65%と多い。

コンタクトレス決済を導入して欲しい交通機関について、「路線バス」が82%と最も多く、次いで「タクシー」が58%と多い。（過年度と同様の傾向）

【コンタクトレス決済の取組を進めるうえで重要なこと】



【コンタクトレス決済を導入して欲しい交通機関】

